

# りょうぜん天蚕の会だより

【第 12 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一 (電話・FAX 024-586-3030)

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度12年目を迎えました。これも偏に会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

27年度は、夏の高温や害虫の異常発生によるエゾノキヌヤナギの食害が影響し、繭の収穫量の減収が危惧されたところですが、緊急避難的に造成した八島時男ハウスが功を奏し、約7,000粒と前年とほぼ同数を収穫することができました。また昨年から新たに取り組んで来た「ふい絹」についてはビーテングを施したことにより一層柔軟な手触りが得られるようになりました。そして恒例の「天蚕まつり」には、本仕立てした天蚕の着物を会員モデルが試着し、ファッションショーさながらの発表を行い、その出来映えに会員来客共々感激したところであります。

28年度はこれらの成果と実績を基にさらなる前進を図る所存でありますので皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

繭収穫後の  
選別作業

6月27日

中川集落  
センター

## 平成26年度総会開催

3月8日（日）午後3時より霊山町大石「りょうぜん里山がっこう」において、会員20名の参加のもと第11回総会が開催された。

菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所安藤支所長の来賓祝辞があった。安藤氏は「天蚕の会の活動は地域に限らず伊達市内において広く周知され定着している。更なる発展に期待する」と述べられた。議長に瓜田氏が選出され、26年度事業報告、一般会計報告並びに27年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。続いて新規会員の菊田政信氏（福島市）の自己紹介が行われ力強い顔ぶれとなった。

総会に先立ち全員で天蚕卵の袋詰めを行い春期の山付け作業の準備が整った。また、総会後は会場を「大ホール」に移し懇親会になった。「里山がっこう」の郷土料理に舌鼓を打ち今年度の更なる繭生産増に向けて大いに意気上がった。



## エゾノキヌヤナギ剪定作業

3月22日（日）天蚕ハウスにおいて会員8名が参加し剪定作業を実施した。

若芽が膨らみ緑が鮮やかさを増しており、天気は穏やかで午前中に全畑の作業を終了した。



## ハウスのネット張りと天蚕山付作業

4月19日（日）午前9時から館ハウスにおいて、会員23名が参加して20棟のハウスのネット張りや天蚕約2万粒の山付作業を行った。満開の桜を望みながら終始なごやかな作業であった。多忙な中県会議員の佐藤金正氏がお出でになり励ましの言葉をいただいた。



## 織物研修会を開催

4月24日（金）石森禎枝会員宅において織物研修会を開催した。以前より提供を受けていた機織機であったが部材不足や老朽が随所に見られ、伊達市の26年度後継者育成特別支援を得て修復が完了したことを機に開催したもの。

新機の稼働による増産と後継者の成長を期待したい。



## 害虫駆除作業を実施

5月10日（日）午前9時から館ハウスにおいて、菅野会長、斎藤(行)、島貫、奥山、河田、八島(時)、柳沼(良)の会員で害虫駆除作業を行った。気象の影響か否か例年に無く異常発生。天蚕と同じエゾノキヌヤナギを食する厄介な害虫である。

一匹一匹と駆除してはキリが無く苦慮していたところ、島貫会員考案の「一網打尽工法」が功を奏し大量の害虫を駆除することが出来た。発生要因の把握と駆除方法の確立が急務である。

(異常発生の幼虫) (枝を振るとバラバラと落ちる)



## 掛田に飼育ハウス増設

5月31日（日）午前10時から八島時男会員が所有する畑に育苗していたエゾノキヌヤナギ樹木が飼育にかなう程に成長したので菅野会長、八島事務局長、斎藤行応事業部長、島貫、八島時男会員が急遽ハウスを設営した。

大橋亮治会員の飼育ハウスが昨年飼育樹木を全面改植したため今年度は飼育出来なかったことや稚蚕の成長に伴って飼育樹木の不足を来してきたことからハウス造成の必要性が急がれたものである。ここに500頭もの稚蚕を移動することができた。緊急避難的に植樹していたエゾノキヌヤナギの成長が功を奏したところである。

京都文教大学杉本星子社会学部教授が6月21日来訪され、この新設ハウスで天蚕の飼育



状況を見学した。ちょうど営繭していた天蚕や4～5令幼虫を見るとともにエゾノキヌヤナギ樹木による飼育法を学び、又機会をつくって来たいと言っておられた。

## 掛田小学校に 飼育ハウス復活

5月24日（日）午前掛田小学校中庭に八島事務局長と八島時男会員がエゾノキヌヤナギと柵の苗木を6本移植し、パイプ資材・ネットなどを設置した。以前から設置されていた天蚕飼育ハウスは除染作業により撤去され、資材も行方不明となっていた。

元通りになったハウスは当日午後天蚕6頭を放ち子供たちの観察学習の機会とした。



## 天蚕コサージュづくり好評づく

11月14～15日（土、日）伊達市各地に支援員として活動されている方々が企画した「だてなまちづくり研究会」が主催した「だてなあんぼ柿ツアー」に応募された18名の一行がりょうぜん紅彩館に集い紅葉散策と「天蚕コサージュづくり」を体験して喜ばれた。伊達市地域おこし支援員たちが伊達市の名所名物を紹介するプログラムの一環として募集し来福された人たちで、八島恭子会員と太幸智美会員が指導にあたった。

また、埼玉県から個人的に来福された3名の方々もコサージュづくりを希望され、大友靖子会員が指導し、完成したコサージュを胸に飾り満足されていた。さらに1月9日、りょうぜん里山がっこうを利用された静岡県の5人グループも製作を楽しまれた。

◆ 恵みの秋を思うぜんさん味おいはこらんじょ ◆

2015 11月 14日～15日

11/14 (土)	11/15 (日)
11:00 JR福島駅西口改札前	7:30 紅彩館
11:00 東山町紅葉散策	8:00 あんぼ柿ツアー
11:00 茨原町コサージュづくり体験	9:00 柿餅づくり
11:00 伊達市 さいたま紅彩館	9:00 埼玉産柿づくり体験
	10:00 埼玉産柿づくり体験
	10:00 伊達市 紅彩館

◆ 集合場所：JR 福島駅西口改札前 12:30  
 ◆ 参加料：5,000円（税込）  
 ◆ 体験・遊園：福島県伊達市（伊達市から車で約30分）  
 ◆ 申込期間：10月13日（火）～11月4日（水）  
 ◆ 催行人数：20名

伊達市 IYADACITY

主催 だてなまちづくり研究会（伊達市地域おこし支援員）



静岡県三島市 池谷由紀子様との5人グループ

## ビーテングふい絹との「コラボショール」作成

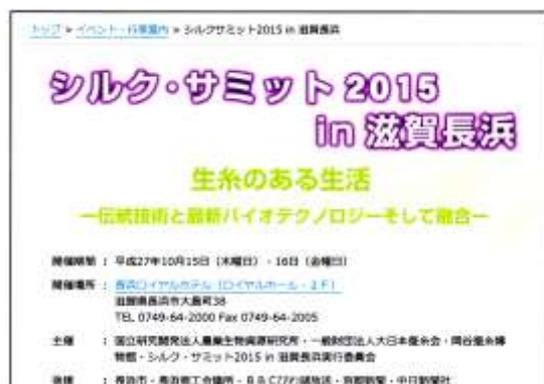
瓜田副会長が蚕糸科学研究所において自らビーテングされた「ふい絹」1キロを提供して頂き、天蚕糸との交織を試みた。昨年はビーテングを施さない「ふい絹」での交織をしたためやや固めの触感のショールであったがビーテングしたことにより、一層柔らかな手触りが得られるようになった。今後はこの低価格の「ビーテングふい絹」と天蚕との交織ショールの販路拡大に大きな期待が寄せられる。



## 瓜田副会長 シルクサミットに参加

10月15～16日（木、金）滋賀県長浜市で開催されたシルクサミットに瓜田副会長が参加した。シルクサミットは、それぞれの地域で養蚕・製糸・染織等の生産活動をしている方や博物館・資料館で地域の方と一緒に活動している方、絹工房等の地域活動をしている方々が相互に意見交換や情報・技術の交流を行うことを目的として、毎年秋に開催している。

今回は17回目のサミットで、テーマは「生糸のある生活－伝統芸術と最新バイオテクノロジーそして融合－」。長浜市歴史博物館長太田浩司氏の基調講演をはじめ、有識者の特別講演、研究活動等の報告があった。



## ふるさと霊山会で説明

11月14日（土）東日本大震災後中断されていた「ふるさと霊山会」に再開され八島事務長が招かれて天蚕商品の展示即売を行った。上野「紅天広」レストランに関東地区在住の霊山町出身者65名が集い旧交を温めた。

その席上、柳沼天蚕の会初代会長の逝去と10周年経過を報告した。

## 「宝絹展」二子玉川ライズで展示会

11月21～23日（土～月）の3日間、東京新興地として名高い二子玉川ライズで「宝絹展」の一部として天蚕のショールと帯の展示を行った。当会が支援を頂いている「大日本蚕糸会」の推薦により展示したものである。ここは東京新興地帯だけにファッションに敏感であっても若い世代＝玉川族という＝の人たちには「天蚕」とはなんたるかを知らないので販路拡大など期待できないと思われた。

## ネット外し作業と反省会

11月29日（日）午前9時より男子会員10名が中川の飼育ハウス14棟のネット外し作業を行うとともに、女性会員9名は昨年からの保存してある家蚕繭の汚れ落としと選別作業を行った。会員や多くの方から頂いた沢山の野菜を入れた豚汁と引き菜入りを調理し、反省会に提供され大いに会を盛り上げた。沢山の差し入れ有難うございました。



## 繭の収穫作業

6月27日(土)午前9時より繭の収穫作業を行った。会員16名が出席し繭の収穫と枯葉取など選別作業を行った。前日までの降雨により多少の水分は残っていたものの全棟の収穫を終えた。

今年は異常気象(高温)や大発生した害虫の食害により飼料不足を来たすなど予期せぬ障害に遭遇したが、八島時男会員が所有する畑のエゾノキヌヤナギ樹木が成長していたので、幼虫の移動など数々の作業を行い昨年同様の収穫をすることが出来た。会員の友人も大勢訪れ収穫を見守りながら緑色の繭に興味を示していた。



## 恒例「天蚕まつり」開催

10月3～4日(土、日)阿武隈急行保原駅において「天蚕まつり」を開催した。当会と伊達市観光物産協会の共催により10月3日(てんさん)頃に開催している。会員20名が出席し来客に対応した。今年度は、駅2階のみの会場となったが好天気に恵まれたため遠隔地よりの来観者が多く見られた。ただ、2日間共に近隣各地で催事が開催された為コサージュづくりへの参加者が例年になく少なかった。

昨年假仕立ての天蚕の着物を本仕立てし、会員柳沼信子さんが動くマネキンになって頂いた。

同時に元会員引地梯子さんに今春天蚕袋帯をお買い上げいただいたのでやはりモデルとしてそれを着用して頂き、訪れる人の注目を浴びた。

また体験コーナーも開かれ、一粒の繭から糸を紡ぐ糸づくりや天蚕の繭を使ったコサージュ作りも実施され人気を集めた。



(福島民報新聞 10月4日)

「天蚕まつり」の様子は7頁の特別編集と11頁の会員の活動スナップに特集しています。



(福島民報新聞 10月4日)

当日の様子は伊達ケーブルテレビで取り上げられ放映された。まだご覧になっていない方のDVDがあります。ご利用下さい。(八島事務局長まで)

【 特別編集 】 天蚕布の本仕立着物と袋帯を召した天女の皆さん



八島恭子さん



引地梯子さん



柳沼信子さん



## 菅野まひろさん ヤママユガ研究で「特選」

平成27年度の夏休研究で、保原小学校4年2組の菅野まひろさんが「ヤママユガ(天蚕)の研究」で福島県理科作品展「特選」に選ばれた。

6月27日の繭収穫作業に家族でお出でになり収穫と選別作業を体験したお嬢さんである。この「天蚕の会だより」編集に際し、研究の動機について次のように寄稿していただいた。

『私は生き物が大好きです。小さい虫から牛などの大きな生き物まですべてにきょうみがあります



。小さな虫との出会いから天蚕の会の皆様と出会うことができ、今回

とても良い研究ができました。ありがとうございます。私がヤママユガ

を研究したいと思ったのは、人間はたくさんの生き物を食べたり利用し

て生きています。それから人間の技術は発展していろいろな物を作る

ことができるのに、小さな虫が作り出す糸「天蚕糸」をまねして作るこ

とはまだ出来ていないという事を知ったからです。

そんな虫はどんな虫なのか、たかが虫一匹といえはそれまでですが、何でも出来る人間がすばらし

いと言う「緑色のダイヤモンドと呼ばれる天蚕糸」を作り出すヤママユガの一生を自分なりに追いか

けてみました。自分に比べれば小さくてちっぽけに見える生き物が大きく人間の生活に関わってい

る事実におどろかされました。今回の研究で新しい疑問がたくさん出ました。続けて研究していきたいです。』

## 母蛾検査顕微鏡2台購入

これまで旧蚕糸試験場から譲りうけた旧式顕微鏡で母蛾検査を実施してきたが、部品不足や緩み等の不具合が生じていたことから大石小学校や掛田小学校より借用して実施してきた。このことから27年度伊達市地域づくり支援金をいただき新規に2台購入したものである。

早速、これを用いて2月14日母蛾検査を行った。



## 天蚕母蛾検査を実施

2月14日(日)9時から中川集落センターにおいて会員16名が参加し天蚕母蛾検査を実施した。伝染性病原菌に冒されていないか優良種保存には欠かせない重要な作業である。「母蛾検査の必要性と検査方法」を基に作業が実施された。今年度は新品の顕微鏡2台が備わり、

## 新人紹介



検査精度と作業効率が格段に向上した。

試験献体は170体。昨年より20体増。検査の結果4体において疑わしい物が発見された(全体の2%になる)。検査の重要性を再認識したところである。

菊田政信さん (福島市)



## トピックス

### 天皇、皇后両陛下がご来県

7月16日 東日本大震災からの復興状況視察のため、天皇、皇后両陛下が桑折町のモモ農家や福島市の復興公営住宅を訪問された。

両陛下の希望に沿った私的旅行で、本県訪問は平成25年7月以来、2年ぶり。震災後は4度目。  
(福島民友新聞 12月13日紙面)



### 「関東・東北豪雨」

#### 県内道路網を寸断

9月10日 台風18号の影響で南会津地方や関東を中心に降った「50年に1度」といわれる大雨は「関東・東北豪雨」と名付けられた。南会津町の館岩川が氾濫し国道352号が崩落したほか、伊達市霊山町でも国道115号が被害を受けるなど広い範囲で道路網が寸断された。

(福島民友新聞 12月13日紙面)

### 安全保障関連法が成立

9月19日 集団的自衛権の限定的な行使を認める安全保障関連法が、参議院本会議で自民、公明両党などの賛成で可決、成立し、30日公布された。

離れた場所にいる人の生命・身体を守る「駆けつけ警護」や巡回や検問の際、任務を妨害する相手を排除する「安全確保活動」のための武器使用が国連平和維持活動(PKO)で可能になった。

11月19日の日米首脳会議で、オバマ大統領は安全保障関連法成立を「歴史的業績だ」と高く評価した。一方、国会議事堂周辺では労働組合や学生などが参加する反対デモが連日行われた。(朝日新聞 HP)



## TPP大筋合意

10月5日 日米など12カ国は、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉で大筋で合意したとの声明を発表した。発効すれば世界の国内総生産(GDP)の約4割を占める巨大な経済圏が誕生する。

関税撤廃率は日本が過去に結んだ自由貿易協定(FTA)で最も高い。政府は11月25日、合意を受けた総合的な対応策を発表。輸出拡大や中小企業の海外進出推進、生産農家の経営支援策を盛り込んだ。(朝日新聞 HP)



輸出拡大や中小企業の海外進出推進、生産農家の経営支援策を盛り込んだ。(朝日新聞 HP)

### 会員の活動スナップ



ネット掛と山付け作業を終えて (上下)



繭収穫作業の一服 (上)



繭収穫後の選別作業 (下)





「天蚕まつり」の様子

伊達ケーブルテレビの取材状況（上）



